The world of space through my eyes

20年来グローバル コミュニケーションズ エキスパート。元JAXAエグゼクティブ アドバイザー（広報・国際担当）、国立大学法人山口大学客員教授（国際関係＋コミュニケーション論）、評論家・オピニオンリーダー。東京生まれ、英国育ち。講演、テレビ、執筆、政府委員など、マルチに活躍する中で、IRと都市開発のコンサル会社代表も務める。
http://www.nishiuramidori.com

連載 第11回

“国際派大和撫子”が伝える宇宙の開発現場

にしうらみどりの

「宇宙の窓から」

人工衛星「しずく」の世界貢献

数多くの打ち上げの中でも、筆者がグローバルコミュニケーションズ（日本を含んだグローバル広報戦略）専門家としてのノウハウと愛情を全力投球してきたのが、昨年5月18日に種子島から打ち上げられた人工衛星、第一期水循環観測衛星（GCOM-W1）「しずく」。なぜ？　と言われると秘めた理由もありますが、これからの地球、人類サバイバルには、水問題が極めて重要と感じたからです。

地球温暖化のほとんどが人間活動で起きた可能性大、今後の進行も考えるとこれだと感じました。また、各メディアで紹介してきたAMSR2（高性能マイクロ放射計）が搭載されているのです。先月は、第23回日経地球環境技術賞優秀賞の栄誉に輝き、筆者も授賞式・パーティーによばれてきました。

初代GCOM-W1「しずく」プロマネ・中川敬三さんと筆者

打ち上げられてから1年半が経過、継続して観測データを取得しています。何を？　それは積算水蒸気量、降水量、海面水温、海上風速、海氷密接度、積雪深、土壌水分など、地球上の水循環に関する物理量の観測です。

しかも、これらのデータを誰もが無償でダウンロードできるようになったので、日本はもとより世界中の研究者に喜ばれています。GCOM-W1が最終検査のため実験棟のクリーンルームにあった時、3・11の地震にあいました。

壁が崩れガラスは飛び散り、居合わせたプロジェクトチームメンバーは防塵服を着たまま外に飛び出し避難。プロジェクトマネージャーの中川敬三さんは、9階で部内会議中、射場作業担当メンバー3人は種子島に出張中で難を逃れます。中川さんの話は続きます。停電で真っ暗なクリーンルームに戻り恐る恐る様子を見ると、何と作業中にGCOM-W1を置いていた所には建材デブリの山。丁度検査を終えたばかりで脇に寄せておいたのが幸いし、埃は被っていたものの間一髪、無事だったのです！「元のままだったら完全崩壊を免れなかったのでツイてる！」と歓喜したと中川プロマネ。中川さん曰く、打ち上げとはイチバチの世界、ツキがあるかないかも非常に重要で、そもそも様々な要素が作用、悪さをするので何事のハプニングもなく成功するのは珍しいくらい微妙な世界だそうです。

その上、たとえ打ち上げが成功しても、軌道上の不具合や、自らの失敗でツキを落としてしまうこともあるそうで。最初から強運の女神がついていたから？（笑）なんてのたまったらプロマネに叱られますが、誕生から幸運な「しずく」は、多くの役目を誇り、中でも前述のAMSR2の観測データは気象予報にも不可欠で、日本の気象庁をはじめ、米国、欧州の海外気象機関などでも使用されています。

世界各地で洪水や干ばつの被害が多発する昨今、こうした技術が将来の気候予測に活用され被害が最小限に抑えられる政策的決定がなされるのを祈っています。